

1. 子育て支援施設の運営

(1) およこの広場びーのびーの (菊名ひろば) (横浜市こども青少年局委託事業 親と子のつどいの広場事業)

事業概要

子育ておよこの交流、集いの場の提供、子育てに関する相談の実施、地域子育て関連情報の収集及び提供、子育て及び子育て支援に関する講習の実施、一時預かりの実施

報告

1) 共に育ちあい育てあうひろば

会員同士が信頼関係を結び、ひろばの子どもたち全体を見合う雰囲気作りができた。各曜日にボランティアに入ってもらいスタッフは安心して、ひろばを見守ることができた。毎月1回ボランティアによるイベントの実施。土曜ひろば開館を年4回実施。毎月1回以上のブログの更新。地域イベントにも積極的に参加。ひろば親子共に地域との交流を深めた。町内会、児童委員への公園企画の説明。下見を兼ねて公園遊びの実施。

2) 当事者性を大切に

子ども達が自由で安全に遊べるひろば環境を考え反映させた。

3) 座談会

0才児親子向けの座談会を年9回実施。

座談会テーマを決め年4回実施。広報紙にも報告を掲載。

4) 一時預かり

ボランティアと連携し預かり中の子どもを利用者と共に、みんなで見守った。広報紙に特集を組み、ひろばを利用したことのない親子にも、ひろばの預かりについて知ってもらおう機会を設けた。

(2) 港北区地域子育て支援拠点どろっぶ (港北区地域子育て支援拠点委託事業)

事業概要

親子の居場所、子育て相談、人材育成、ネットワーク、情報収集、提供報告

1) 利用者支援事業横浜子育てパートナーが定着し、ひろば相談や個別相談、また地域からの相談、電話相談と多様な入口に丁寧に関わっていけるようになった。また、びーのびーのとの連携や地域の保育園から繋がることもあり、保健師や子育て支援に関わる個人、機関との個別支援が強まった。

2) どろっぶサテライトが1年経って、地域の支援者が増え、はやくも利用者の中から主体的に動こうとする親が生まれ、サテライトの雰囲気づくりを温かいものにしてくれた。隣接の綱島東小学校とは学校長、副校長、PTA会長はじめ双方のイベント時に協力し合うなどの関係ができた。また祭礼などについては綱島東町内会との連携が進んだ。

3) 子育て情報発信のあり方として行政のオープンデータ化に伴い、独自のアプリ開発に着手し、市民発、Cord for Kohokuの取り組みが始まった子育て応援メールマガジンココめ〜からさらに時代に添った。情報発信に向けた取り組みに着手した年となった。この動きから経済局の様々な取組みに注目されることとなり、新たな事業展開が見込まれるようになった。

4) 妊娠期からの切れ目ない取組みとしてどろっぶおよびサテライトでの土曜日両親教室開催において申込システムの改変を区と着手し実現させた。働いている人、育児で忙しい子育て家庭の志向に沿った申込み形態で区の助産師と協働で産前からの支援に取り組むことができた。

5) 毎年行ってきた利用者アンケートの仕組みを大幅に改善。今年は全国版のアンケート結果との比較検証ができ、より綿密な地域診断とこれからの活動に参考になる結果が受け取られた。

6) 市民協働条例に基づく自主事業申請による「たべ〜る ば 大倉山」実現に向けて環境づくり、事前調整に取り組んだ。

7) 障がい児者支援機関や、障がい当事者グループ、子育て応援隊バッチの普及啓発など、多様な関係者ととも拠点以外での場での子育て支援の取組を広げることができた。

2. 子育て支援に関する事業 預かり保育「まんま〜る」

事業概要

幼稚園・保育園に入園前の子どもを対象としたグループ保育。登録制

報告

1) 一人ひとりのペースを大切にじっくり対応して、みんなリラックスして保育時間を過ごせるようになった。発達がゆっくりなお子さんの受け止め方を、常にスタッフ全員で模索している。

保育前に各自その日の「一言目標」を掲げることで、より意識して保育にあたることができた。9月より全コース定員(8名)に達し、合計38名。一時預かりの登録者は15名。

2) 同じ曜日のメンバーで、お互いの子を理解し、見守り合う姿が見られるようになった。菊名ひろば・どろっぶ・企画室より地域のイベントを案内し、子育てを楽しむきっかけを提供できた。

3) 一時預かりの利用者：月平均10名、

延長保育の利用者：月平均5名、利用時間：月平均5、5H

一時預かり利用のお子さんが年度の途中からグループ保育に移行することが多かった。

3. 子育てに関する地域の情報発信

事業概要

① 出版・制作・企画事業

(ア)「びーのびーの幼稚園・保育園ガイド」の発行・販売

(イ) 制作・企画 各種制作 イベント実施 (ウ) 書籍販売

(エ) びーのびーの通信

② インターネット事業

(ア) 港北区子育て応援マップココマップ(ウェブサイトの編集・制作・運営)

(イ) トレッサ横浜HP内「とれおんパーク」ブログ記事制作 委託事業

③ 事務請負・コンサルティング事業

(ア) 子育てタクシー (イ) 子どもと保育総合研究所事務

報告

1) 新事業に向けての勉強会に出席するなど積極的に進んだ。

映像祭に出品するなどのきっかけから広報、事業展開に繋げることができた。これまでの制作の信頼性から新事業につなげることができた。

2) イベントで収集した子育て当事者の声を反映させて冊子づくりができた。

3) 新しいココマップ世代の編集メンバーが増え、記事の作成を任せるとにより当事者目線の発信ができた。

4) ブログの外部メンバーが力を発揮してくれ、記事数に反映できた。ブログのイベントが(ダンボールイベント)年2回で定着してきている。イベント時に当事者(子育て、シニア世代)に話かけるなどをしてひろばの紹介やサポートの情報、子育て情報の提供をすることができた。

5) フェイスブックなどのツールを使い情報発信の強化をした。定期的に子どもと保育総合研究所の運営会議に参加し、共有の場を増やした。

6) 子育てタクシーの連携では、朝礼でドライバーたちとのコミュニケーションを増やし、広報活動に多く参加するなど、共有の場を増やした。また、タクシー協会のモニターにも参加し、女性の観点からの意見出しができた。

7) スタッフ内での報告・共有を心がけた。

8) 広報紙は年10回、滞りなく発行をすることができた。新しくどろっぶ向かいにある店舗から新規広告を受注することができた。

9) 動画制作ワークショップに参加し、法人PR映像を制作。総務省関東総合通信局・関東ICT推進NPO連絡協議会・かんとNPO映像祭実行委員会の共同主催による「第1回かんとNPO映像祭」に応募。優秀賞を受賞。

4. 子育てに関するセミナー・イベント・調査等の企画実施

報告

① 取材、見学対応

年間4回の現場視察会を開催し、7組11名の参加があった。法人が運営する子育て支援施設(菊名ひろば、港北区地域子育て支援拠点どろっぶ)を中心に施設見学、説明を行い、事業の啓発・情報交換の場とすることができた。また、実践者のための実務体験の場として活用いただいた。他に、視察及び取材・見学が、26組77名あった。

② 外部講演会講師、原稿作成依頼等

2016年度 7回(三鷹市保育園地域開放事業講師、市読書活動推進ネットワークフォーラム企画、多摩子育て支援要請講座、21世紀かながわ円卓会議、江戸川総合人生大学スポーツアメンティ、雑誌記事クレヨンハウス、地域保健2017年3月号東京法規出版)

③ 外部委員会出席等

2016年度 8回

(ひとつプラン港北、未来を強くする子育てPJ 選考コスモプラン、横浜市読書活動推進NF 企画、ボランティアセンター運営委員会)

④ 学生実習受入れ

2016年度 12回

(桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部、明治学院大学、岩崎学園横浜実践看護専門学校、東京慈恵会医科大学、岩谷学園、横浜創英大学、浦和大学、長野短期大学、)

⑤ 絵本の会

菊名ひろばではおはなし会を隔月で実施。バザーで特別おはなし会を実施。不要の絵本を持ち寄った「えほんや」を開店、売上金は各拠点への絵本寄贈。港北図書館主催のおはなし大会に2回参加。びーのびーの通信に絵本紹介、「おすすめ絵本」特集を組む。絵本の入れ替え。年2回定例会を実施。研修で神奈川近代文学館で開催された企画展「絵本作家・西村繁男の世界展 やこうれっしゅで出発！」を見学、記念講演会に参加。

5. 地域型保育事業の運営 ちいさなたね保育園

事業概要

子ども・子育て支援新制度において平成27年4月に設立された「小規模保育事業A型」

報告

1) 保育の基盤づくり

子どもと保育総合研究所で事例発表(8月13日)異年齢保育を柱とする。(子どもの様子を見て9月から異年齢で生活)小規模多機能介護施設「なの花」との交流。樽町中学校の「ふれあい体験事前授業」に

参加。外部研修については、自主研修も含め、約35講座に参加。卒論研究の大学生を受け入れることにより自園の見直しと次世代育成。小学館に実践報告を応募。毎週水曜日、年2回拡大職員会議を非常勤職員と共に行い保育を深める。しおり、児童票、日誌などの書類の見直し。

2) 保護者と地域の懸け橋になる

毎月第一日曜(午前)の公園掃除に参加。7月3日実施の清掃は保護者も参加。秋祭りに地域の方々も招待し交流。ブログにより地域との関わり、地域での子供たちの様子を発信。(毎週金曜日)「助産師さんと話そう」3回実施

3) 地域の親子も共に

師岡沼上耕地公園にて出前保育 8回実施

6. 地域福祉・交流に関する事業 地域福祉・交流スペース COCOしのはら 報告

2017年4月開所に向けての準備

7. 上記の事業を行うために必要な一切の活動 報告

- 1) 法人運営に関わる一切の会議開催
- 2) インターン受入れ 2016年度1名
- 3) 法人研修の開催
- 4) 地方税第314条の7第1項第4号に掲げる寄附金を受け入れる特定非営利活動法人を指定するための基準、手続き等に関する条例第2条に規定する指定特定非営利活動法人となった。
- 5) COCOしのはら 事業開始に伴う準備。
- 6) 定款変更手続き。

◆2016年度活動計算書(2016年4月1日~2017年3月31日)

経常収益の部	
会費収入	451,000
寄付金	1,244,567
補助金	48,215,382
自主事業収入	21,182,563
受託事業収入	74,918,601
その他収入	188
経常収益合計	146,012,301

経常費用の部	
子育て支援施設の運営	80,256,247
子育て支援関連事業	5,649,783
子育てに関する地域の情報発信事業	9,849,906
子育て関連セミナー・イベント・調査等の企画と実施事業	377,087
地域型保育事業の運営	39,463,756
内部取引に係る消去額	-169,385
事業費計	135,427,394
管理費	7,658,236
経常費用計	143,085,630
当期経常増減額	2,926,671

◆ひろば利用実績

活動場所	開館日数	入会者数	のべ利用者数			1日平均利用者数
			子ども	親等	合計	
おやこの広場びーのびーの	241日	112人	4,208人	3,375人	7,583人	31.5人
どろっぷ	244日	1,243人	16,159人	14,418人	30,577人	125.3人
どろっぷサテライト	245日	1,325人	13,856人	12,895人	26,751人	109.2人
総 数		2,680人	34,223人	30,688人	64,911人	

◆ボランティア活動実績

活動場所	一般・親子ボランティア		学生ボランティア		年間活動時間	年間延人数
	活動時間	延人数	活動時間	延人数		
おやこの広場びーのびーの	1,873.1時間	556人	288.7時間	70人	2,162時間	626人
どろっぷ	3,905.0時間	1,804人	1,699.0時間	322人	5,604時間	2,126人
どろっぷサテライト	1,756.0時間	439人	1,381.0時間	36人	3,137時間	475人
合 計	7,534.1時間	2,799人	3,368.7時間	428人	10,903時間	3,227人

◆寄付金・協力を頂いた方々(敬称略 五十音順 スタッフ除く)

石丸 朋子 伊藤 絵里 植村 允勝 小野田 由紀子 川島 敏子 久保田 章 栗木 幸枝 グレイコ 育美 高坂 千晶 小林 さやか
 妹尾 徳二 照井 富佐恵 中野 保子 永井 紀久子 濱田 茂 權田 紋子 牧 美奈 牧野 カツコ 牧谷 泰子 町田 恵美
 松盛 陽二 宮城 佐和子 宮城 貴哉 望月 環司 望月 邦 望月 好美 山中 幸子 横山 弘美 米本 正明 和田 美和

あたたかいご支援ありがとうございました。びーのびーのバザー及びフリーマーケット等へ参加して下さった皆様へ心より御礼申し上げます